

I 「校内研究プランシート」の活用

I-① 校内研究会の計画・評価・改善(1学期)

A小学校

A小学校の校内研究主任は「校内研究プランシート」を用いて、各回の校内研究会につながりをもたすことができるよう、各部会の役割、校内研究会の内容や目的、校内研究会の成果や課題を整理しました。また、管理職と連携を図りながら、校内研究会を推進されました。校内研究の副題にある「みんなでつくる授業」を実現させるために、「研究だより」を発行して研究の方向や研究会での学びを共有できるように働きかけました。

A小学校で作成された「校内研究プランシート」

(A小学校)校内研究プラン				
学校教育目標 自ら学び、心豊かにたくましく生きようとする子どもの育成		児童生徒の実態 ・真面目で一生懸命に何事にも取り組むことができる。 ・自立の面で他者に依存しがちで、影響されやすい傾向が見られる。		
目指す児童生徒の姿 ・めあてをもって学習する姿 ・書くことが好きな姿 ・よく考えて説明できる姿 ・自分から学ぼうとする姿				
校内研究の主題 「わかる・できる・楽しい」が実感できる授業を目指して～子どもの意識の流れと手立てを大切にしてみんなでつくる授業～				
重点的に育成を目指す資質・能力 算数科における基礎学力の定着				
月	校内全体の取組	研究主題に基づいた 校内研究・校内研修の内容	研究・研修の目的	成果と課題
4月	☆基礎学力向上のために、学びづくり部の提案で「音読漢字」「マス計算」を火曜日の朝に15分間で行う。	14日(水)校内研究会① ・今年度の校内研究に関する方向と具体的な取組について 26日(月)授業づくり委員会 ・授業プランシート作成	・校内研究のねらいが分かる。具体的な「読み解く力」を意識した授業のつくり方について共有する。	○昨年度の研究成果と課題を踏まえ、児童の実態や目指す児童の姿を具体的に挙げながら、全員で授業づくりについてイメージすることができた。 ○「読み解く力」を発揮する場面がたくさん見られる授業を考えることを、全員で行う研究会を通して共有することができた。
5月	☆学びづくり部で「量感を身に付けるための掲示物」を作ろうと話し合い、各学年の昇降口に「量感クイズ」やはかりを置く。	26日(水)授業研究会①校内研究会②2年「長さをつかってあらわそう」<測定> 17日(月)授業づくり委員会 指導案検討 21日(金)2年3組事前授業 24日(月)2年2組事前授業	・校内研究の具体的な内容が分かる。全員で学んだことを共有し、自分たちの学年やすぐに取り組めることを一つでもイメージができるようにする。 	○単元を通して、学びの足跡の掲示の有効性 ○量感の準備(普段の生活と併せて) ○子どもが操作できる拡大図 ▲本時の課題の曖昧さ ▲指導の順番について ▲指導するところと考えさせるところの曖昧さ ▲交流の工夫 ○それぞれの学年で量感を身に付けるために必要なこと、振り返りについて考えることができた。 ○指導案様式の中に指導することを明記するように変更となった。
6月		16日(水)授業研究会②校内研究会③ 「びゅんびゅんごまを作っていっしょにあそぼう」2年、3年生活単元 「わたしは何でしょう」5年、6年生活単元 「こんなときどうするの～マナーを守って遊ぼう～」1年、2年自立活動 21日(月)授業づくり委員会 指導案検討 ・4年「角の大きさ」<図形> ・5年「小数のわり算」<数と計算> ・6年「対称な図形」<図形>	・子どもの姿からどのような指導や支援をするよいかを学ぶことができる。 ・「授業アップデートシート」を基にそれぞれの先生方が自分の見方で学ぶことができる。 ・様々なステージの先生方が職場にいることを認識し、それぞれの考えを知ることができる。	○それぞれの先生方が「授業アップデートシート」を記入し、自分のこととして授業の振り返りをすることができた。 ○それぞれの先生方が感じたこと、学んだことをゆったりとグループで話し合うことができた。 ▲様々なステージの先生との交流を上手く促すことができなかった。 ▲「授業アップデートシート」の活用についての意図を上手く伝えることができなかった。 
7月		20日(火)授業づくり委員会 授業プランシート作成 ・4年「計算のきまり」<数と計算> ・6年「およその面積」<図形>		
夏休み		1学期の取組の検証・2学期以降更新すること ・「授業アップデートシート」の書き方の丁寧な説明と活用について(自主的に学ぶことのできるサポート) ・各分掌と連携しながら今必要な組織力を高める取組を協力しながら考える。(特にICT活用について)		

1学期末には、各部会の取組状況等を評価し、2学期以降の取組の重点を更新しました。校内研究会での学びを日々の授業に結び付けられるよう、学習習慣や学習環境を整える「学びづくり部」の部長とのさらなる連携やICTの活用を推進するための情報教育主任との連携などが整理されました。



管理職

「校内研究プランシート」を用いて研究の方向や各回の研究会の目的を研究主任と共に確認しています。また、「研究だより」を読み返すと、前回の研究会と今回の研究会がつながっていることを確認できます。校内研究は学校の核であり、学校経営を活性化させることを実感しています。

I 「校内研究プランシート」の活用

I-① 校内研究会の計画・評価・改善(2学期)

A小学校

A小学校では、夏季休業中に校内研究会を実施し、2学期以降の研究授業や取組の重点について話し合いがもたれ、目指す方向が確認されました。9月は、コロナ禍による緊急事態宣言が発令されていました。A小学校では、コロナ禍でも教員が学び続けるための方法を模索されました。そこで、Microsoft Teamsを使った研究会を計画し、**管理職や情報教育主任と連携を図りながら研究会を実施されました。**(この実践の詳細については、**Ⅲ-① Microsoft Teamsを活用した授業研究会**をご覧ください。)**「校内研究プランシート」**を用いて成果と課題を整理し、状況に合わせて計画を見直したり、取組を評価・改善したりして校内研究を進められました。

A小学校で作成された「校内研究プランシート」

8月	校内研修 夏季校内研究会	1学期の取組から見えてきたことを基に、本校で2学期以降に大切にしたいことを明確にする。 全校公開授業の指導案作成(2学年分)	▲課題の認識、共有、解決と普段の授業のように、丁寧に進めていく必要があると痛感した。 ▲本時の内容を考える時に、「授業づくりシート」をしっかりつくる必要があると感じた。目指す子どもの姿が明確でない限り、どうしても本質ではないところの議論になってしまうのはもったいないと思った。 ▲作っていただいた指導案から「授業プランシート」を作成し、手立て等をより具体的にしたい。 ▲次回の研究会では、「できる・わかる・楽しい」を実感している子どもの姿で語ることでできる研究会にしたい。	
9月	☆全国学力・学習状況調査の分析を行い、普段の授業で大切にしたい内容を「学びづくり部」の資料として配付する。	29日(水)授業研究会③ 4年2組「計算のきまり」	安心・安全な校内研究会 ICTを様々な面で導入する。 子どもの姿で語る研究会を実現する。 	○Teamsを使った研究会を通して、先生方のICT活用への意識が高まったように感じる。 ○授業でもICTを活用してもらえらることとなり、有効な交流の方法を全員で学ぶことができた。 ○それぞれの子どもから学んだこと、普段の授業で実践したい具体的な内容を発信してもらうことができた。
10月	☆Teamsを活用した研究会の練習をOJTの時間を使って行う。	6日(水)少人数指導 3年1組「わり算や分数を考えよう」〈数と計算〉 27日(水)授業研究会④ 6年2組「およその面積や体積」〈図形〉 	少人数のよさや丁寧な支援とは何かを明確にする。 子どもの姿で語る研究会を実現する。 「読み解く力」について理解を深める。 今までの研究の中間のまとめ 付けたい力の明確化 系統性を意識した支援 全体交流のあり方について ICTの効果的な活用 研究会の分散による、先生方の学ぶ意識の向上 直接参観とICTを使っでの参観を選択できる、先生方の参加しやすい研究会 それぞれのアップデートシートの交流とこれからの具体的な自分の学びを体現できるような研究会にする。	▲授業づくりについて、該当学年と少人数指導担当の先生に任せている部分があり、何を話し合うとよいかかぶれてしまった。 ○子どもの変容をたくさん見てとることができた。 ○Teamsを活用した研究会をスムーズに行うことができた。 ○授業を参観する方法を、Teamsを活用してタブレットで見る方法と実際に見に行く方法を選択してもらうことで、無理なく参観していただくことができた。 ○事務の先生も参観して、たくさんの備品がどのように使われているのを見たり、子どもたちの様子を見たりすることができる機会がありがたかたと教えてもらうことができた。 ○ICTを使うことで、意思表示が苦手な子が自分から全体に発信できるということが共通認識できた。 

2学期からは、夏休みに確認した校内研究の方向を共通理解し、1人1台端末の効果的な使い方の実践を積み重ねてられました。「みんなでつくる授業」の実現に向けて、「学びづくり部」等の各分掌と連携を図りながら取り組まれました。



A小学校
校内研究主任

1学期は「研究主任である自分がやらなくては」という思いが強くなりましたが、2学期からは、先生方の**得意分野を生かして、連携**を図りながら研究を進めることを心がけました。このことにより、それぞれの先生方に校内研究を自分のこととして捉えて授業づくりに参加したり、校内研究会の運営に関わったりしてもらうことができました。

I 「校内研究プランシート」の活用

I-② 校内研究会の計画・評価・改善(1学期)

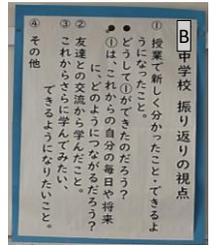
B中学校



過去2年間、学習指導要領(平成29年告示)下での授業、評価ができることを目標に、学校全体で研究してきたので、今年度は「いよいよ実践」という段階です。年度当初、先生方の意識には差がありましたが、まずは、「やってみよう」と言える仲間を増やしていくことから始めました。

B中学校
校内研究主任

B中学校の校内研究主任は「校内研究プランシート」を用いて、前年度から校内研究で大切にしてきたことを「校内全体の取組」にまとめられました。授業の始まりにはどの教科でも「めあて」を提示することと「振り返り」を行うことを共通理解され、どの教室にも「B中学校振り返りの視点」が掲示されています。



B中学校で作成された「校内研究プランシート」

(B中学校)校内研究プラン				
★互いに学び合い、授業の質を高め続ける教職員集団を目指して				
学校教育目標 豊かな心・たしかな知力・たくましい実践力をもった生徒の育成		児童生徒の実態 ・明るく素直である。 ・何事に対しても興味や関心をもって、前向きに取り組む。 ・学習に真剣に取り組む、学力は概ね高いが、二極化が見られる。		
目指す児童生徒の姿 あかるく思いやりのある生徒 おおしく世界に夢はせる生徒 やりぬく気力と体力のある生徒 まなぶ意欲あふれる生徒				
校内研究主題 新学習指導要領での評価を中心とした授業改善 ～“学びの地図”を生かしためあての提示を含む授業と評価～				
重点的に育成を目指す資質・能力 主体的に考え、判断し、自らの責任で行動する生徒の育成。				
月	校内全体の取組	研究主題に基づいた 校内研究・校内研修の内容	研究・研修の目的	成果と課題
4月		研究推進委員会①	今年度の研究主題、研究方法について、研修部会担当者との確認	今年度の目標について研修担当(教科主任)に周知した。
5月	*授業の始まりには“めあて”を明示し、終わりには振り返りをする。	第1回校内研究会 教科部会：新学習指導要領下での授業、評価の確認	今年度の研究主題の確認 各教科での授業、評価についての方向性の確認	今年度の目標について、全体に周知した。また、各教科で方向性について確認してもらった。
6月	*B中学校振り返りの視点をもとに、各教科ごとに振り返りシートを使った授業の振り返りを実践する。	第2回校内研究会(6月9日) 「学ぶ力向上訪問」：研究授業(数学科) 指導助言：滋賀県教育委員会指導主事	数学科のICT(タブレット)を使用した授業実践を参観することにより、各教科で“どのように学ぶのか”について、参考にする。また、県教委指導主事からの指導助言を受ける。 	コロナ禍で、全員が終始教室に入って参観することが叶わなかった。しかし、1時間の流れて子どもたちがどのようにICTや協働学習を通して学んでいるかを観察できた教員もいた。 
7月	*どのように学ぶのか?の視点に立ち、ツールとしてのタブレット端末の活用を推進する。	研究推進委員会②(7月7日) 「夏の研修、1学期の状況」	夏の研修の概要説明、1学期の取り組み状況についての情報交流	1学期の取り組み状況について、全体で少しでも共有できるように各教科に1学期授業実践シート作成を依頼した。
夏休み		1学期の取組の検証・2学期以降更新すること ・1学期の各教科の実践から学び、他教科での改善や新しい取り組みに生かす。 ・校内研究会で学んだことを2学期以降の改善や新しい取り組みに生かす。		

授業研究会の研究協議では、**他教科の研究授業からの学びを自分の担当教科の授業に結び付ける**ため、視点が示されたホワイトボードを使って話し合いが進められました。(この実践の詳細については、**Ⅶ-② 協議の視点を明確にした研究会**をご覧ください。)

I 「校内研究プランシート」の活用

I-② 校内研究会の計画・評価・改善(2学期)

B中学校

B中学校では、8月は夏季休業中に校内研究会を実施し、講師を招聘して研修会が行われました。研究主任が研究通信を発行することで、研修会の内容や目的を共有されました。9・10月は、8月の研修会で学んだことを一人ひとりの教員が実践し、11月の校内研究会で取組の交流をされました。「授業アップデートシート」も活用することで、話し合いが深められました。



B中学校
校内研究主任

2学期は、夏季休業中の校内研究会で外部講師から学んだ「パフォーマンス課題」を軸として実践してきました。教科によってスピーチやムービーづくりなどいろいろありますが、うまく教科間でつながることもありました。研究主任として自分の実践を参考にしてもらえるように公開したり、若手教員の取組を紹介したりしました。

B中学校で作成された「校内研究プランシート」

8月	*小グループ（教科部会やOJTグループ）での研修会を行い、議論する場をもつ。	第3回校内研究会(8月6日) 「講師による研修」 講師：○○大学 □□教授	1学期の実践について全体で情報交流、発表後、講師の先生からの指導助言と講話	単元を“内容のまとまり”で捉えて指導計画を立て、どのようなパフォーマンス課題を設定するのかということをご指導いただいた。生徒に付けたい力を各々の単元でまとまりでとらえることについてイメージができた。
9月				
10月				
11月		若手教員授業力向上訪問(11月10日) 初任者、2、3年次研修受講者による研究授業（その他の者は参観） 指導助言：○○○○○○	夏の研修を生かした授業改善が行われているかの検証、また他教科の取組から自身の教科で生かせることなどの情報交流。	
		第4回校内研究会(11月11日) 中堅者研修受講者による研究授業 講師：○○大学 □□教授	指導助言をいただき、さらなる授業改善に向けたプランニングのイメージをもつ。	

第4回校内研究会(11月)



外部講師

夏季休業中の校内研究会で話題になった「パフォーマンス課題・パフォーマンス評価」をキャッチして真正面から授業改善に取り組んでいるところが素晴らしいです。そこで校内研究は活性化していますね。生徒の個別の課題を明確にして、全体で同じことに取り組むという**授業観や学習観を全ての教員が変えていく**必要がありますね。

中学校では、よく「教科の壁がある」といわれますが、他教科の教員も熱心に授業について話し合っておられました。他教科でも教科の内容について議論されている姿が素晴らしいです。また、話し合いが焦点化されるように、協議の視点を予め示したホワイトボードの活用も有効です。すぐ書いたり消したりすることのできるよさを生かして話し合いが進められました。

今年度は、特に1人1台端末が整備され、どの学校でも活用に向けて研究されていることと思います。ICTの活用については、教職経験年数に関係なく得意な人も多いので、**みんなが互いによさを生かして学ぶ**ことができるように、校内研究会を計画・実施できるとよいですね。

「校内研究プランシート」を用いて、それぞれの役割や校内研究の目的を明確にすることが大切ですね。

